

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本方針

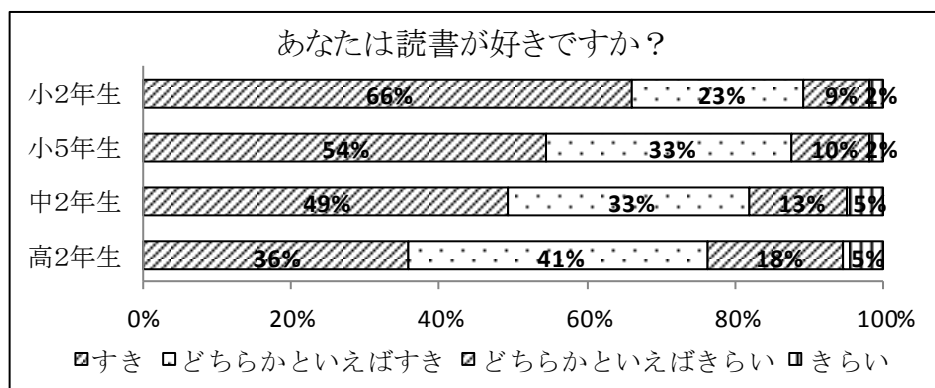
子どもの読書活動は、人生をより深く「生きる力」を身につけていくために欠くことのできないものです。読書は、言葉の発達に大きな効果があります。集中力がつき、想像力・感受性が豊かになり、ストレスの解消、人の気持ちが分かるようになっていわれています。乳幼児期から本に親しみ、子ども自身が読書の楽しさを知ることができるよう、読書環境の整備に社会全体で取り組んでいくことが大切です。本市では、次の2点を基本方針とし、関連する諸施策を実施します。

(1) 家庭、学校等における子どもの読書活動の普及・啓発

家庭は、子どもが読書の楽しさ・大切さ・素晴らしさを初めて知る重要な場所です。読み聞かせをしたり、いっしょに本を読んだり、家族で本とふれあう時間を共有することが大切です。そのため、保護者が読書の大切さを理解することが必要です。

学校は、従来から学習活動を通じて読書活動を行っており、子どもの読書習慣を形成する大切な役割を担っています。今回のアンケートでは、読書が好き、どちらかといえば好きを併せると小学2年生・5年生・中学2年生いずれも80%を超えています。高校2年生も77%あります。読書に対する関心、好きという気持ちを大切にし、育てていくことが必要です。

このことから、子どもの読書習慣の確立に大きな役割を持つ、家庭・学校等が相互に連携・協力した子どもの読書活動の普及・啓発を進めます。



H28 本市調査「子どもの読書活動に関するアンケート」より

(2) 読書環境の整備

子どもの読書環境の充実のために、子どもの読書活動に携わる地域、学校、図書館、読書関係ボランティアなどと連携を図るとともに、学校図書館の整備、充実を図ります。

さらに、図書館のホームページの充実・図書館だよりや広報かぬま等でのお知らせ、図書館間のネットワーク、広域利用の充実を進めていきます。

2 第3次計画での新たな取組

第3次計画では、第2次計画の取組と課題をふまえながら、家庭・地域・学校における読書活動の推進について新たな取組も進めます。

(1) 読書通帳の作成

子どもたちに本に親しんでもらうため、図書館が子ども向けに読んだ本の記録ができる「読書通帳」を作成します。学校・家庭などで子どもと本について語り合ってもらい、すてきな本との出会いを応援します。

(2) プレパママデビュー塾等での読書啓発

これから親になる市民のために、身近に本がある環境を紹介しながら、子どもと読書についてのパンフレットを作成し、直接手渡すことで読書への関心を深めてもらいます。

(3) 赤ちゃんタイムの導入

赤ちゃんタイムとは、赤ちゃんが泣いたり幼児が声を出したりしても、温かく見守る時間の事です。小さな子ども連れの保護者にゆっくり図書館を利用してもらえるよう赤ちゃんタイムを導入し、子育て・子どもの読書を応援します。



3 計画の指標

計画の基本方針に沿って、次の指標を設定します。

本市では、第2次計画で家読の普及・推進を進めてきました。家読とは、家庭読書の略で、家族で本を読んでコミュニケーションすることで同じ時間、同じ空間を共有し、楽しい時間を過ごすことで、家族の絆が深まり豊かな心の成長が期待できます。

家庭での読書を習慣化できるよう、関連事業や啓発活動を推進してきましたが、アンケートではまだ家読を知らない、知っていてもやっていないという結果でした。

そこで、実施率を上げるための環境整備を進め、1か月に1冊も本を読まない不読^{ふどく}の子どもがいなくなるよう、子どもの読書活動を推進していきます。

○ 家読の実施率アップ

(家読をやっている・家読の普及をしている)

	平成28年度 (実績)		平成33年度 (目標値)
保育園幼稚園 (保護者)	16.2%	⇒	30.0%以上
小学校	21.1%		40.0%以上
中学校	5.1%		10.0%以上

○ 不読率の改善

(1か月に1冊も本を読まない人を減らす)

	平成28年度 (実績)		平成33年度 (目標値)
小学校	2.3%	⇒	2.0%以下
中学校	4.0%		3.0%以下

H28 本市調査「子どもの読書活動に関するアンケート」より